

NAKHODOKA Jan 2, 1997

3つの課題について

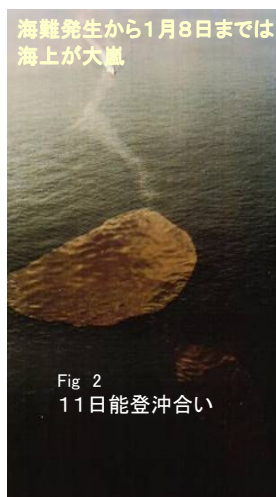
K. Sasaki



巨大油塊

能登半島西方海域

1月10~13日



グラブ船寿号と
石川県調査船白山
1月12日、13日



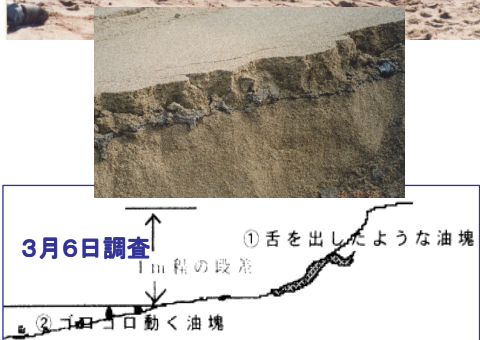
1. 巨大な油塊の存在が事前に分かっていた、 しかし……

- 航空機からの油塊位置の通報が3時間後
で、役に立たない
- グラブ船の実績・有効性が周知されてい
なかったため、増強が遅れた
- 日本の回収船は、高粘度油を回収できる構
造になっていない
- オイルフェンスによる集油・・・構造、訓練



ボランティア、市民等3・5万人以上

ザル、ヘラ、シャベルで



1月12日AM10時

砂浜／油の大規模漂着

- ・砂 約5千トン → 処理場埋め立て
- ・濃い油を含む砂 → 焼却／埋立
- ・海浜の植生ダメージ → 海岸変化
- ・ボランティア → 数万人





海上から
平穏な日は、徹夜で回収3回、海水混じりで2,800KL



仮設道路の建設

嵐の度に石はさらわれ、完成に26日間を要した 1月23日朝



油の抜き取り

2月15日

船首部撤去



3. 船首部残留油拔取り

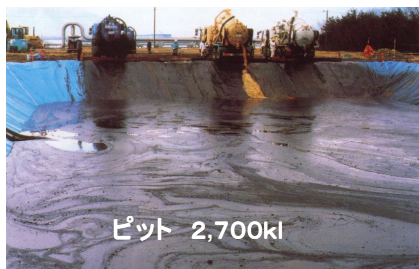
- 類似の事例では、ホースライン、タンカー横付けで行われている
- 仮設道路による方法は、貴重な経験であり、今後のために、問題点を明確にしておく

結 論

1. 巨大油塊群の事前情報があれば、この回収を確実にするシステム(情報、周知、戦力集中投入)
2. 大規模な砂浜への漂着に対する対応システム(重機投入の是非、最適な機械の選択と運用)
3. 座礁した船体の残油…再び同様の方法として仮設道路の問題を貴重な経験から明確に

これらは、初期段階の混乱の中での対処となるため、事前にマニュアル化しておく必要がある。

回収に大活躍した機械類とピット



ピット 2,700kl



High Performance Vacuum Loader
強力吸引車800台と簡易タンク



船首部

コンクリートポンプ車



寿号、Jan.12に現場に
回収と回収油の広島県
処理場への1万トン輸送